

ご意見		回答
第1章 プロジェクト策定の目的等		
1	P2に関して、主に問題点として挙げられているのは林業不振による民有林の荒廃であるが、その他にも、ニホンジカの増加によって植物が食い荒らされ、森林の更新が阻害されている問題がある。これを問題として認識した上で、要因であるニホンジカについては、保護を考えて欲しい。問題の元内ではあるが大切な生態系の一部として尊重した上で生態系における問題を解決して欲しい。	森林におけるシカの食害は、樹木の枯死や下層植生の消失による裸地化等、森林の機能に大きな影響を与えることから、シカの生息状況を把握しながら、樹木を守るための侵入防止柵の設置などを行うとともに、関係自治体などと連携し、都県が目標とする適正密度（目標頭数）の管理に努めていきます。
第2章 水道水源林管理の現状		
2	今現在、森林などの自然は被害をとて受けている。そのため整備することで、水質改善だけでなく他の問題も解決できるのでとても良いと思った。	水道水源林には、水源かん養機能や土砂災害防止・土壌保全機能のほか、生物の住みかとなる生物多様性保全機能、二酸化炭素吸収・酸素生産といった地球環境保全機能など多面的な機能があります。こうした様々な機能を着実に発揮できるよう、水道水源林の適正な管理に取り組んでいきます。
3	記載されていた課題点：サイトの認知度が低い、について、小学生～高校生の学生に広げていくことを提案したい。私が小学生だった頃、川や自然へのフィールドワークなどの影響により、それらに興味を持っていた。そういったフィールドワークを増やし、かつそこで起きている問題もシリアスに伝えることで、学生への認知度を上げられるのではないかと。	本プロジェクトでは、水道水源林の認知度向上を図り、幅広い年代の方に水源保全の重要性をご理解いただくため、水道水源林ポータルサイト「みずふる」のコンテンツを充実させ分かりやすい発信を行ってまいります。また、小学生用学習支援教材のリニューアルやキッズページの開設などを行い、水道水源林の認知度向上に努めてまいります。さらに、親子層が参加しやすくなるような水源林ツアーの実施や、学生が気軽に多摩川水源森林隊の活動に参加できるよう「キャンパスDAY」を設けることで、水源保全の取組に参加する機会を増やしてまいります。
第4章 取組内容		
4	P21 水源林をもっとPRした方が良い。みずふる等の認知度、アクセス数は低いのではないかと。知りたい情報はAIに聞くことが主流になりつつあるので、サイトまでたどり着かないと拡充しても見て貰えない。TikTokやInstagramで水源地区の訪問を促す広告を定期的に配信する方が、効果があるのではないかと。	本プロジェクトでは、水源林の認知度向上を図り、幅広い年代の方に水源保全の重要性をご理解いただくため、「知る」「触れる」「協働」を柱として、取り組んでいくこととしています。「知る」では、SNSによる発信のほか、ホームページやコンテンツの充実等により、幅広い年代に向け水源林の認知度向上を図ってまいります。「触れる」では、水源林ツアーの開催等により、水源林に訪れ、その魅力に直接触れてもらうことを考えてまいります。
5	私は、現在行われている活動に加えて、小学生をターゲットにした新たな取り組みを提案します。この取り組みの目的は、小学生に今行っているプロジェクトや水源と森林のつながり、自然そのものについて少しでも興味を持ってもらうことです。具体的な案は3つあります。 1つ目は、プロジェクトに係わっている方が直接小学校に訪問して、授業をするという方法です。実際に私が通っていた小学校でもある飲料会社の広報部の方が来てくださって、どのようにして飲料を作っているかや、きれいな水の調達には森林の保護がかかせないこと、そしてそれにつながるのが私たち個人のペットボトルのリサイクルなどの小さな意識だと教えていただきました。そのときは新型コロナウイルスの影響でオンライン上で行われましたが、どのような方法であれ小学生に直接お話しをするのは、とても効果的だと思います。 2つ目は、多摩の水源や森に小学生を呼んで、自然に触れ合う機会を与えるというものです。すでに小学生向けに学習支援を行っていらっしゃいますが、実際に自然と触れ合うのは、自然について教科書を通して学ぶことよりもはるかに強く小学生の印象に残ると思います。現地に生息する動植物を観察したり、植林やごみ拾いなどをして環境保護の活動をしたりすることもよいと思います。これは一般に向けて募集することも、小学校の運営と連携して校外学習や遠足の一環として行うこともできます。実際に自然と触れ合うことで、小学生の自然や環境保護に対する興味は高まるはずです。 3つ目は、小学校向けにポスターやチラシを配ることです。このプロジェクトの活動や、多摩の自然の現状などについて小学生でもわかりやすいイラストが豊富なポスターにすることで、小さなことではありますが小学生にこのプロ	次世代を担う小学生等へのPRは、重要と考えています。このため、水道局では、水道水源林のことを知っていただけるよう、都内の小学校を対象に、水道水源林に関する学習支援教材を配布するとともに、希望を学校には、職員による出前授業も行っています。また、実際に自然と触れ合う機会として、親子参加型の水源林ツアーや多摩川水源森林隊による活動など、小学生を対象とした取組も展開しています。いただいたご意見も参考にしながら、取組を進めてまいります。

6	<p>取り組み内容の点で、小学生向け教材として興味を持ってもらうという方針が示されているが、正直なところ、それだけでは効果は限定的だと思う。なぜなら、私は現在中学生だが、小学生の頃に行った製鉄所や浄水場の見学について、今でも強い関心を持っているかと言われると、そうではないからである。見学当時は楽しくても、その後継続的な関心につながらなければ、将来の担い手育成という目的は十分に果たせないと感じる。</p> <p>また、水源林ツアーの存在についても、もっと大々的に広報すべきだと思う。実際、私はこの文章を読んで初めて水源林ツアーの存在を知ったが、同様に多くの人がその存在自体を知らないのではないかと考える。内容以前に、認知されていないことが大きな課題である。</p> <p>将来的な担い手確保を考えるのであれば、InstagramやX、YouTubeなどを活用した大規模な情報発信が重要である。最近の若者は、テレビやラジオといったオールドメディアよりも、SNSを通じて情報を得ることが多い。また、有名人やインフルエンサーが体験している様子を見て興味を持つことも多い。若者の関心を惹きつけるという点では、こうした手法の方が効果的だと考える。</p> <p>若い世代の興味を獲得できれば、結果として水源林を管理・保全する人材の増加にもつながり、長期的な事業の持続性が高まるのではないだろうか。</p>	<p>次世代を担う小学生等へのPRは、重要と考えています。</p> <p>このため、水道局では、水道水源林のことを知っていただけるよう、都内の小学校を対象に、水道水源林に関する学習支援教材を配布するとともに、希望を学校には、職員による出前授業も行っています。</p> <p>また、実際に自然と触れ合う機会として、親子参加型の水源林ツアーや多摩川水源森林隊による活動など、小学生を対象とした取組も展開しています。</p> <p>さらに、イベントやSNS等、様々な機会を通じたPRを行うとともに、水道水源林ポータルサイト「みずふる」においてショート動画等のコンテンツの充実などを図るなど、分かりやすい情報発信に努めていきます。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、取組を進めていきます。</p>
7	<p>区内に住んでいる学生は友達に多摩地域に住んでいる人がいたとしても、23区外と23区の間での壁のようなものを感じており、奥多摩地域に関しては特に自分たちと関係のない別世界のように感じてしまいがちで、立地も悪く触れ合う機会が全くないに等しいです。ですので、奥多摩地域に対する興味をもつには学校や地域などのある程度強制力のあるイベントを催すことが効果的だと思います。例としましては、学校の希望者を募る自然体験の候補地を奥多摩にするようにする、または奥多摩地域のおいしい特産物をいわゆる映える食べ物のマーケット（緑の食べ物しか売っていないなど）として若者を集客するのがよいのではないかと考えました。</p>	<p>水道局では、水源地域の河川上流域と水を使用している河川中下流域の方々が親しく交流することを通して、水を育む水源地の大切さや水質保全の重要性について理解していただくため、多摩川水系上下流交流会を開催しています。</p> <p>引き続き、地元自治体が開催するイベントなどに積極的に参加することで、水源地保全に対する理解促進を図っていきます。</p>
8	<p>該当ページ：28ページ</p> <p>意見内容：資料を見る限り、お金を集めることや、協力を求めることが多く、団体・企業等への補助制度が見られない。学生による森林保全活動の促進にあたっては、大学内での団体活動（サークルなど）に必要な費用の一部を助成するといったことも必要ではないかと考えられる。助成金を支給するにあたっては会計報告や実施内容の報告をさせれば資金が適正に使用されたという証拠が残る。</p>	<p>本プロジェクトでは、親子層が参加しやすくなるような水源林ツアーの実施や、学生が気軽に多摩川水源森林隊の活動に参加できるよう「キャンパスDAY」を設けることで、水源地保全の取組に参加する機会を増やしていきます。</p> <p>こうした活動に当たっては、当局職員や森林の専門家による適切な活動場所の選定や、安全な作業指導のほか、必要な装備の準備・貸出なども行っており、参加しやすい環境整備にも努めていきます。</p>

<p>多摩川水源森林隊に参加している者です。 森林隊の今後の取り組みについて、また、本プロジェクトの進め方について投書させていただきます。</p> <p>(1) 森林隊の在り方と目標に向けての活動内容のアンマッチ</p> <p>2026年度以降のみんもりPrjでの目標は「意識を醸成し、水源地保全の機運を高めていく」事により重点を置くとなっております。</p> <p>私自身、他団体によるネーミングライツの植樹祭に参加した事がきっかけで森の保全に興味を持ち、森林隊に参加させていただくようになりました。</p> <p>ですので、この目標には大変賛同しております。</p> <p>大学生の参加促進により力を入れる取り組みについては、目標に合致し、更にこれからの世代向け且つ森林隊の活動目的に沿うもので、大変賛同出来ませんが、それ以外に挙げられている活動内容については、森林隊としての活動目的からブレている事、またその効果に疑問があります。</p> <p>まず、多摩川水源森林隊は「民有林を救う」事を目的として活動していると理解しております。</p> <p>その直接的な目的達成のため、枝打ち・間伐・道作り等ハードな作業内容になり、参加のハードルが高くなっているのが現状で、これまで年齢や身体的制約により参加出来なかった方、また、長年参加して来たが高齢等の理由により参加し辛くなった隊員の参加を促す方向性は良いと思います。</p> <p>ただ、その方向性への策が、森林隊の活動目的から外れ、効果も薄いと感じております。</p> <p>活動層を広げるため初心者や親子に参加し易い活動を増やすとあり、巣箱設置が例となっていると見られますが、鳥による害虫駆除を目的とするのであれば、深い森で鳥の好む高さにどうやって初心者や小さい子供が巣箱を設置するのでしょうか。</p> <p>「安全に配慮した」巣箱の設置が果たして本当に「民有林を救う」事になるのか疑問です。</p> <p>目的が果たせないのであれば、啓蒙活動でしかなく、そうであれば水源林ツアーの範疇と思います。</p> <p>また、課題として森林隊の作業内容がハードである事が原因でリピート率が低い(目標値も不明ですが)とありますが、そもそも強制でも義務でもないのでリピート率が低いのが必然であり、巣箱設置とリピート率向上が繋がると思えません。</p> <p>「初心者」は枝打ち等の作業が初めて・不慣れな方を指し、そういった方が参加し易い土壌を作りリピート率が上がるよう、既に設定されている初心者dayの内容や頻度を見直すのが筋と考えます。</p> <p>「未参加者」や年齢・身体的制約により参加出来なかった方向けの活動内容は、森林隊の存在目的を捨てた数字として参加者を一時的に増やすだけにしないよう、検討が必要と考えます。</p> <p>森林隊の本来の目的からブレず、また、今後のみんもりPrjの目標を反映するために、既存のボランティア また、初心者や未参加者にも参加していただき、活動内容の検討し、それを発信していくことこそ意識の醸成と水源地保全に機運を高めていく事に繋がると思います。</p> <p>森林隊に継続して参加させていただいている大きな理由の1つが、羊頭狗肉ではなく、目的が明確で実体と実感のある活動内容であるという点です。</p> <p>20年以上続いてきた森林隊の活動内容を空虚なものにしないよう是非ご検討いただきたいです。</p> <p>(2) 本プロジェクトの進め方について</p> <p>活動内容の変更だけでなく、私の理解が足りないのかも知れませんが、なんだかよく分からないけれども4月以降の活動日が削減されました。</p> <p>急に、年度が変わったので方針が変わりました、じゃあよろしく、と、これまでの具体的な効果や課題も理解していないままで、これまでの取り組みはいったい何だったのか、正直 善意を搾取されたと感じます。</p> <p>みんもりPrjの次年度以降の説明も、この公募も遅いです。</p>	<p>多摩川水源森林隊は、これまで、多くのボランティアの皆様に参加いただき、民有林の再生が一定程度進捗した一方で、安全に活動できる適地が減少してきました。また、参加者からは、初心者向けの簡易な作業があると参加しやすいとの声もいただいております。</p> <p>こうした実態や参加者等からのニーズを踏まえ、引き続き、民有林を緑豊かな森林へと再生するため、多摩川水源森林隊の活動を継続するとともに、今後は、森林保全に対する取組を様々な人に理解してもらうことを目的に、初心者向けの取組を新たに設定するなど、幅広い層からの参加も促進していきます。</p>
--	---

9

この公募が3/13で切で、4月以降の活動に本当に反映されるのか？2週間でどうやって取り纏めと指針策定を行うのでしょうか。

9 私が森林隊に継続して参加させていただいているもう1つの理由が、参加者だけでなく、指導員さん・事務局の方も真剣に真摯に取り組んでいる点です。

森林隊への説明会の場の雰囲気からすると、おそらく皆さん同じように感じているのではと思います。

先にも述べましたが、森林隊の課題の共有、解決への検討等（糾弾の場ではありません）を設けていただく等、よりよい活動になるよう、進め方と計画性の再考をお願いいたします。